



コスモ・スクール うすだ

一人一人が輝き つながり 未来を拓く

「物」を見せるのではなく「物事」を見せる。

夏休みが明けた朝、昇降口には、少し重たそうな荷物を抱えて登校する子どもたちの姿がありました。手には、理科の自由研究、色鮮やかなポスター、工夫を凝らした工作。そのどれもが、夏の時間をかけて生まれた「かけがえのない物」でした。

下駄箱の前で荷物をそっと降ろすと、作品を囲むように友達が集まり、目を輝かせながらのぞき込みます。「これなに?」「どうやって作ったの?」「すごいじゃん!」。そんな言葉が、まるでシャワーのように、作品を作った子の心に降り注ぎました。

私も、子ども達の輪の中にそっと入り、「ちょっと見せてくれる?」「これ、すごいね」「こんな立派な木の本棚を作ったんだあ」などと子ども達に声をかけると、作品を抱えた子たちは、少し照れながらも、誇らしげに語り始めます。遊び方、作り方、苦労したところ、工夫したところなどなど。作品の奥にある、試行錯誤や発見、悔しさや喜び。それらが、言葉の端々に滲み出ていました。

その言葉のひとつひとつに、夏休みの豊かな時間が込められていて、目に見える「物」を通して、目には見えない「事」を語りたい子と、その「物事」を見聞きたいとのぞき込む子達の互いの思いが醸し出す、その場の雰囲気がとても素敵だったのでした。

「物」の魅力に惹かれる人もいるでしょう。でも、やはり人が心を動かされるのは、「物事」なのだと思うのです。そこに込められた思い、過程、出来事。それこそが、人と人をつなぐ魅力となって存在するのだと思います。

この夏休みの間、お子さんと共に、作品を作ってくださいたり、自由研究を手伝ってくださいたりした保護者の方もいらっしゃるでしょう。そのような「事」も、お子さんにとっては、大切な「物事」の一部となっています。保護者の方々のご支援に、改めて感謝です。



信頼が築かれる

先日の朝のことでした。いつものように昇降口で挨拶をしていると、2年生の下駄箱で女の子の姿に目を惹かれました。その女の子は、自分の靴を下駄箱に綺麗に入れると、隣の下駄箱が視界に入るや否や、何のためらいもなく、すっと手を伸ばすと少し乱れていた靴を直していました。

私が、この2年生の女の子の姿に惹かれたのは、その反応の早さでした。その一連の動きには、迷いも、戸惑いも、葛藤も、違和感も、何ひとつ感じられませんでした。まるで、呼吸をするように自然と、その靴を揃えたのでした。

私は、その姿から、それが、男子の靴であろうが、すごく汚れている靴であろうが、雨の日の靴であろうが、たとえ穴があいてボロボロの靴であろうが、この子は、同じように手を伸ばし、靴を揃えたであろうという説得力のようなものを感じたのでした。

感動した私は、すぐに担任の先生にその出来事を伝えました。すると先生は、微笑みながらこう言いました。

「〇〇さんは、すると思いますよ。」

私は、担任の先生の言葉を聞き、この4か月足らずの間に、担任の先生は何度も、この子のそのような姿に立ち会ってきたからこそ、迷いなくそう言えたのだと思いました。

小学校2年生という年齢でありながら、この子はすでに、人としての根っこを育み、人との信頼を静かに、確かに築くことができる『人』なんだなあと、思わずにはいられませんでした。

感心したこと…。

先日、6年生の社会科見学に同行させていただいた時、感心したことがありました。それは、多くの子が「無駄にわちゃわちゃしない」事でした。社会科見学や遠足など校外に出る際、どうしても子ども達は、浮足立って、「無駄にわちゃわちゃ」しがちになってしまいます。しかし、それは、ずっと静かにしていればよいという訳ではなく、TPOに合わせたり、メリハリをつけたりして、いつでも、どこでも、誰とでもではなく、大切なことを見極める、本質を捉えるという視点が大切だと思います。

例えば、森將軍塚古墳に行って、目の前に広がる初めて目にするであろう巨大な前方後円墳に興奮したり、感嘆したりして、「わ～すごいね～」と声を上げたり「お～い」と言ってみるのはいいのです。しかし、森將軍塚古墳の周りや博物館の館内で走り回ったり、大声で騒いだりして「わちゃわちゃ」するのは違うことは分かると思います。つまりそういう事なのです。

企業の社会的責任の先駆者とも言われている、伊庭貞剛（いば ていこう）は、お孫さんに「一流になりたいければ」という内容で、次の話をしました。

お前がもし一流になりたいければ、お金をイメージしてみなさい

硬貨は音を立てるが、紙幣は音が出ないんじゃ

ずっと静かじゃろ

実はこれ、人間も同じなんじゃ

人として、未熟で三流なやつほど、喚くし、嘆くし、うるさいし、頭も硬い

しかし、人として価値が上がれば上がるほど、静かになり、謙虚になり、考え方も柔軟で、頭を下げる事ができる。

だから、もし、おまえが一流になりたいなら、どんなことが起きても

周りに全て話す必要はないし、善いときも悪いときも感情を表に出さず

黙って息を溜めながら黙々と淡々と、やるべきことを組みこなさい



この6年生の社会科見学中、多くの場面で見られた、「無駄にわちゃわちゃしない」一流の視点をもつ子ども達の姿は、「田小の顔」を体現しているとても素敵な姿でした。

また、もう一つ感心したことは、「あいさつ」ができるということでした。見学場所に到着し、降車する度に、ドライバーさんに向かって、「ありがとうございます。」とはっきりとした声であいさつする姿。説明をしてくださる学芸員の方に、「よろしくお願いします。」と伝えながら頭を下げる姿。お弁当を目の前にして「いただきます。」と作ってくれた方に思いを馳せ感謝する姿。

高学年になるにつれて、挨拶の音量が小さくなったり、挨拶ができなくなったりしてしまいがちです。しかし、田小の6年生は、毎朝、ちゃんと挨拶をしてくれます。その姿は清々しく、挨拶ができないことの方が恥ずかしいということを感じているかのようです。

「きょ～と～と 話してみませんか？」

なかなか登校できない、お子さんをお持ちのご家庭の方

・ご家族だけでもOK

・お母様だけ、お父様だけでもOK

・もちろんお子さんの同席もOK

・ご自宅に伺うこともできます。

話の内容は、お子様のことはもちろん、その他の雑談でもOKです。

申し込み方法

・ご都合のよい日を何日か候補日として、お考えてください。

・学級担任に希望の旨をお知らせいただくか、

学校までお問い合わせください。

・きょ～と～の予定などを考慮して、

日程を折り返しご提案いたします。



ご希望の方は、保護者懇談会の時などに担任の先生にお伝えください。